

作文を審査して

審査委員 鹿沼市立久我小学校長 大橋 久美子

第41回 鹿沼市緑化及び森林愛護作文コンクールへの応募作品は、小、中学生が各9点と昨年度より減少しましたが、高校生からの新たな応募が9点あり、それぞれの段階に応じた思いや考えが鮮明に表現されていました。

入賞した小学生の作品は、身近な体験や経験がきっかけとなり、自然保護や森林愛護に関心をもって、自分にできることは何かを具体的に表現してありました。また、中学生や高校生の作品では、学習して得た知識や情報をもとに自分たちがやれることは何かを真剣に探り、それを端的に表現していました。いずれにも、自然保護や森林愛護の精神がしっかり根付いていることが伝わり、その作品にぐいぐい引き込まれていくのが分かりました。しかし、応募作品の中には、既定の字数より短く、実際に体験したことや得た情報から原因や課題を探っているものの、それに対する自分の考えがもう一步踏み込んだかたちで表現されると読み手に伝わってくるだろうと思う作品もありました。

コンクールの審査に携わり、鹿沼市の小学生や中学生、そして高校生が、緑化や森林愛護に関心をもち進んで行動しようとしていることが伝わってきました。今後、より鹿沼市の森林が大切にされ、緑豊かなまちになっていくことが期待されます。